

わたしの挑戦

山形県 和田小学校 五年
添川 夢叶

夏休みになったら、やろうと決めていたことがある。今日、私のかみの毛を切った。入学してから4年半、ずっとのばしていた自まんのロングヘア。こしまでのびたかみの毛は、学校中でもナンバーワン。測ってみたら、なんと75センチ。ドキドキ、これから私の断ばつ式が始まる。私が自分から自分の思いでちょう戦したボランティア、「ヘアドネーション」。

ちょうど1年くらい前になるだろうか。勉強に身が入らず、がんばって走っても全然走れない時期があった。念のためと思ってした検査で、まさかの病気が判明した。治らない病気、一生飲み続ける薬、目の前が真っ暗になった。

そのとき、一さつの本との出会いが私を変えた。小児ガンにかかりながらも、けん命にたたかう女の子の実話である。そこで初めて、ヘアドネーションの存在を知ることになった。ただのばしていたかみの毛への意識が、変わったしゅん間だった。

それからは、毎日のシャンプーに気合いが入った。めんどろだったドライヤーも念入りにするようになった。だけど、やっぱりときどきは結んだかみが重たくて、頭がいたくなることや、とかすのがひと苦労で、一番下までとどかずイライラすることもあった。かみをのばすだけなんて、かんたんなことだと思っていたが、毎日のケアは意外と大変だった。

でも、そのたびに思い直す。私より何倍もつらい思いをして、治りようにたえている子のためにあきらめられない。かみがないことで、人目を気にする子がいなくなればいい。かみの毛がぬけることの精神的苦痛を、やわらげてあげられたらって。

美容室の大きな鏡の前、不安ときん張で自信のない自分が映し出された。気をつかって、やさしく声をかけてくれる美容師さん。それでも手際の良い指先は、次々と私のかみの毛を小さい束に分け、ゴムで結んでいく。この結び目の上をカットすることで、寄附することのできるかみの毛ができあがる。かみを1センチのばすのに1カ月、だけど切るのは一しゅんだから、この一しゅんを大切にしたいと思った。

なみだが出ちゃうかもとハラハラしたけれど、不思議とハサミを入れた一しゅんは、ショックよりも自分に自信が持てるしゅん間だった。鏡の中には、少し大人びてほこらしく映る私があった。お金は寄附できない私にとって、とても有意義なことで心からうれしく思えた。

ヘアドネーションのことを多くの人に知ってもらいたい。私の力なんて本当にちっぽけだけれど、一人ひとりの小さなやさしさの積み重ねで、病気で苦しむ人たちが少しでも前向きに笑って過ごせる世の中になってほしい。

ヘアドネーションを通して、助け合いや思いやりの心は自分が与えているとばかり思っていたが、実は私の方が勇気や希望という形で、何倍もの心のワクチンを受けていたのだ。

今日は私のきれいな検査の日。また、痛い採血がある。だけど、ちっともこわくない。今までとちがう自分がいた。また、かみをのばそうかな。私の心のワクチンをとどけたいから。